

平成20年4月30日

各 位

会 社 名 東邦レマック株式会社
 代表者名 代表取締役社長 笠井 庄 治
 (JASDAQ・コード7422)
 問合せ先
 役職・氏名 常務取締役管理本部長 弓矢教二
 電話 03-3832-0131

営業外損失の発生及び平成20年12月期業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向等を踏まえ、平成20年12月期(平成19年12月21日～平成20年12月20日)の業績予想について、平成20年2月8日付当社「平成19年12月期決算短信」にて発表いたしました業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成20年12月期 中間業績予想の修正

(1) 連結中間業績予想数値の修正 (平成19年12月21日～平成20年6月20日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
					円 銭
前回予想 (A)	9,079	109	147	69	13.65
今回修正 (B)	8,679	59	57	29	5.72
増減額 (B-A)	△400	△50	△90	△40	—
増減率 (%)	△4.4	△45.9	△61.2	△58.0	—
(ご参考) 前中間期実績	8,892	124	246	116	22.72

(2) 個別中間業績予想数値の修正 (平成19年12月21日～平成20年6月20日) (単位:百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	中間純利益	1株当たり 中間純利益
					円 銭
前回予想 (A)	8,871	108	155	69	13.65
今回修正 (B)	8,471	58	65	29	5.72
増減額 (B-A)	△400	△50	△90	△40	—
増減率 (%)	△4.5	△46.3	△58.1	△58.0	—
(ご参考) 前中間期実績	8,687	133	264	70	13.89

2. 平成20年12月期 通期業績予想の修正

(1) 連結業績予想数値の修正 (平成19年12月21日～平成20年12月20日) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
					円 銭
前回予想 (A)	19,452	324	405	182	35.78
今回修正 (B)	18,952	274	275	123	24.19
増減額 (B-A)	△500	△50	△130	△59	—
増減率 (%)	△2.6	△15.4	△32.1	△32.3	—
(ご参考) 前期実績	19,403	321	380	186	36.56

(2) 個別業績予想数値の修正 (平成19年12月21日～平成20年12月20日) (単位: 百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
					円 銭
前回予想 (A)	19,000	300	400	180	35.22
今回修正 (B)	18,744	273	283	123	24.19
増減額 (B-A)	△256	△27	△117	△57	—
増減率 (%)	△1.3	△9.0	△29.3	△31.7	—
(ご参考) 前期実績	18,968	322	397	141	27.75

3. 修正の理由

(1) 連結

前期末の冬物商戦不振による冬物在庫の評価減及び春物商品のパンプス類の不振により、売上高の減少に加え販売価格の低下により売上総利益率が低下し、当第1四半期は、売上高37億4千1百万円(前年同期比3億5千4百万円減)、営業損失9千4百万円(前年同期は3千7百万円の損失)、経常損失は予想以上の円高のためデリバティブ評価損が1億8千4百万円あったことなどにより2億6千8百万円(前年同期は1千4百万円の損失)とそれぞれ前年同期から大きくダウンいたしました。

当第2四半期以降においても消費の低迷が予想され、当社グループを取り巻く環境は依然厳しく、円高は是正されておりますが、第1四半期の業績不振をカバーすることは困難と判断し、中間期の業績予想を修正するものであります。

また、通期については、期初において前期と同水準の業績予想をしておりました。第1四半期の業績は前年同期から大きくダウンし、第3四半期以降は前期と同水準の業績で推移すると予想しておりますが、第1四半期の業績不振をカバーすることは難しいと判断し、通期の業績予想も修正するものであります。

(2) 個別

連結と同様に、前期末の冬物商戦不振による冬物在庫の評価減及び春物商品のパンプス類の不振により売上高の減少に加え販売価格の低下により売上総利益率が低下し、当第1四半期は、売上高36億5千4百万円(前年同期比3億4千9百万円減)、営業損失9千万円(前年同期は2千9百万円の損失)、経常損失は予想以上の円高のためデリバティブ評価損が1億8千4百万円あったことなどにより2億5千9百万円(前年同期は2百万円の損失)とそれぞれ前年同期から大きくダウンいたしました。

当第2四半期以降においても消費の低迷が予想され、当社を取り巻く環境は依然厳しく、円高は是正されておりますが、第1四半期の業績不振をカバーすることは困難と判断し、中間期の業績予想を修正するものであります。

また、通期については、期初において前期と同水準の業績予想をしておりました。第1四半期の業績は前年同期から大きくダウンし、第3四半期以降は前期と同水準の業績で推移すると予想しておりますが、第1四半期の業績不振をカバーすることは難しいと判断し、通期の業績予想も修正するものであります。

なお、平成20年6月21日を合併期日として、連結子会社であります株式会社新宿屋を吸収合併いたしますので、通期の個別業績予想の今回修正額は合併後の数値となっております。

(注) 上記予想は、発表日現在の情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以上